



世界YWCAは説明責任を果たします 2020年年次報告書



「女性運動として、世界YWCAは深みのある計画を実施するという代々受け継がれてきたレガシーを維持し続け、影響力を生み出し、立ち直る力を強化していきましょう。共に、これからの若い世代のために希望、平等、平和をもたらす未来を築き続けましょう。」

世界YWCA会長 ミラ・リゼック(Mira Rizeq)



「世界YWCAは、YWCAグローバル・リーダーシップ運動において、価値ある試金石となるように活動しています。私たちは有言実行を旨とし、若いリーダーや2035年に向けた共通目標(Goal 2035)に対する私たちの説明責任が何であるかを探り、それを果たすことも目指します。皆でこの方針を実行すれば、私たちの運動と2035年目標(Goal 2035)は動き出し、ハミングしだし、そしてブンブンと大きな音を立てるでしょう。権力構造がジェンダー平等に向かって変革をもたらすほどに耳をつんざく大音響になって。この年次報告書は、世界YWCAが2020-2023目的達成に向けた方策と計画の枠組(2020-2023 Strategic Framework)をどのように実現したかについてのストーリーです。」

世界YWCA総幹事 ケーシー・ハーデン (Casey Harden)



「コロナ禍にも関わらず、私たちは世界YWCAの持続可能性の再構築に取り組み、その結果、新たな資金確保に成功しました。世界中の支援者を対象にした2つの個別の募金キャンペーンで、資金調達もおこないました。」

世界YWCA会計役員 エマ・マッカーシー (Emma McCarthy)

100カ国以上で活動を展開し、100年以上の経験を持つ世界YWCAは、特に若い女性のリーダーシップに焦点を当てた誇りある世界最大最古の女性運動です。

世界での活動国と地域数



性と生殖に関する健康と権利



児童婚、早婚、強制結婚



女性や少女への暴力



若い女性のリーダーシップの変革



社会的・経済的正義



経済的エンパワメント



セーフ・スペース・モデルを採用した国の数

世界をより良くするため、とりわけ、世界中で生活を一変させたコロナ禍が発生した2020年という未曾有の年からより良い復興をするためには、若い女性や女性がリーダーシップを発揮することが必要不可欠です。

私たちは、女性、若い女性、少女たちの生活、そして世界をより良い方向に変えるために、地域、文化、宗教を超えて彼女たちの力を繋ぎ結集します。地元コミュニティを基盤とし、女性が持つ改革の力に根ざして、女性、若い女性、少女たちが、自分自身の生活やコミュニティの変化に影響を与えるだけでなく、他の人々にも同様の行動を取るよう働きかけるリーダーや変革の担い手となれるよう、支援や機会を提供することに取り組んでいます。女性が声を上げられるセーフ・スペースとプラットフォームを提供しています。

世界に広がるネットワークと、力強く、エキューメニカルで革新的かつ世界的なフェミニスト運動としての独自の立ち位置により、コミュニティ、国、地域、世界レベルで女性の権利とジェンダー平等を提言し闘うことができます。

この年次報告書は、コロナ禍の中でも世界YWCAとYWCA運動に参画する若い女性や女性のリーダーによりなされた目覚ましい進歩や、世界YWCAが少女、若い女性、女性たちの生活に目に見えて影響を与える事業に投資してきたことを紹介するものです。

私たちは、YWCAのレガシー、アプローチ、原則を大切にし、若い女性や少女たちの参画、コンサルティング、リーダーシップに根ざした革新的で低コストの解決を鼓舞するリーダーシップやアドボカシー活動の効果的なモデルを創造、拡大、反復し続け、そして、世代を超えたグローバルリーダーのダイナミックなネットワークをさらに結集することを目指しています。

「新型コロナウイルス感染症の世界的流行発生以降、私たち若者は学んだり、働いたり、友人と語り合ったりする機会の多くを失いました。しかし、現在の混乱は、偏見に満ちた古くからの認識を変えるチャンスです。私たち若者こそ、その実現に向けて行動することができるのです。協力を求め、ジェンダー公正を主張し、一緒になって行動を起こすことができます」

日本のYWCAユースリーダー
東上菜々子 (Nanako Tojo)



YWCA運動は、混乱と変化に満ちた異例の時期を経験しました。働き方や、自由な移動から、バーチャルに運動に関与し構築し続ける方法にいたるまで、これまでのやり方をすべて考え直す必要に迫られました。YWCAのリーダーたちは、コミュニティの重要なニーズに力強く、希望をもって、革新的に、柔軟性をもってあきらめず対応し、率先して本質的な変化をもたらしました

世界が閉鎖され、移動が制限され、紛争や戦争が増加し、気候が危機的な状況にあり、資源が減りつつある中でも、世界YWCAはベストを尽くしました。大きな障壁があるにもかかわらず、実質的にはすばらしい前進を遂げました。世界YWCAは、現場で活動するリーダーへの投資やコミュニティの中での活動、以下に挙げる活動など、得意な分野に力をいれました。

- ・世界中の若い女性リーダーと協働し、リーダーとしての彼女たちの認知度を向上させ、変化を促す機会を提供しました。
- ・新たな大口のパートナーシップ助成金と既存の助成金の更新を確保し、加盟YWCAが経済的、社会的、政治的正義のための活動を継続し強化できるようにしました。
- ・加盟YWCA1の実情に応え、新型コロナウイルス感染症対策の特別基金を集めました。
- ・世界最大の青少年団体であるビッグ6（Big6）の一員として十分に活動したことで、私たちが青少年セクターで大きな役割を果たす団体として認められました。

私たちは、独自の目的のもと、世界に大きな影響を与え続け、世界中のYWCA運動のリーダーたちにとっての試金石であり続けます。

目的

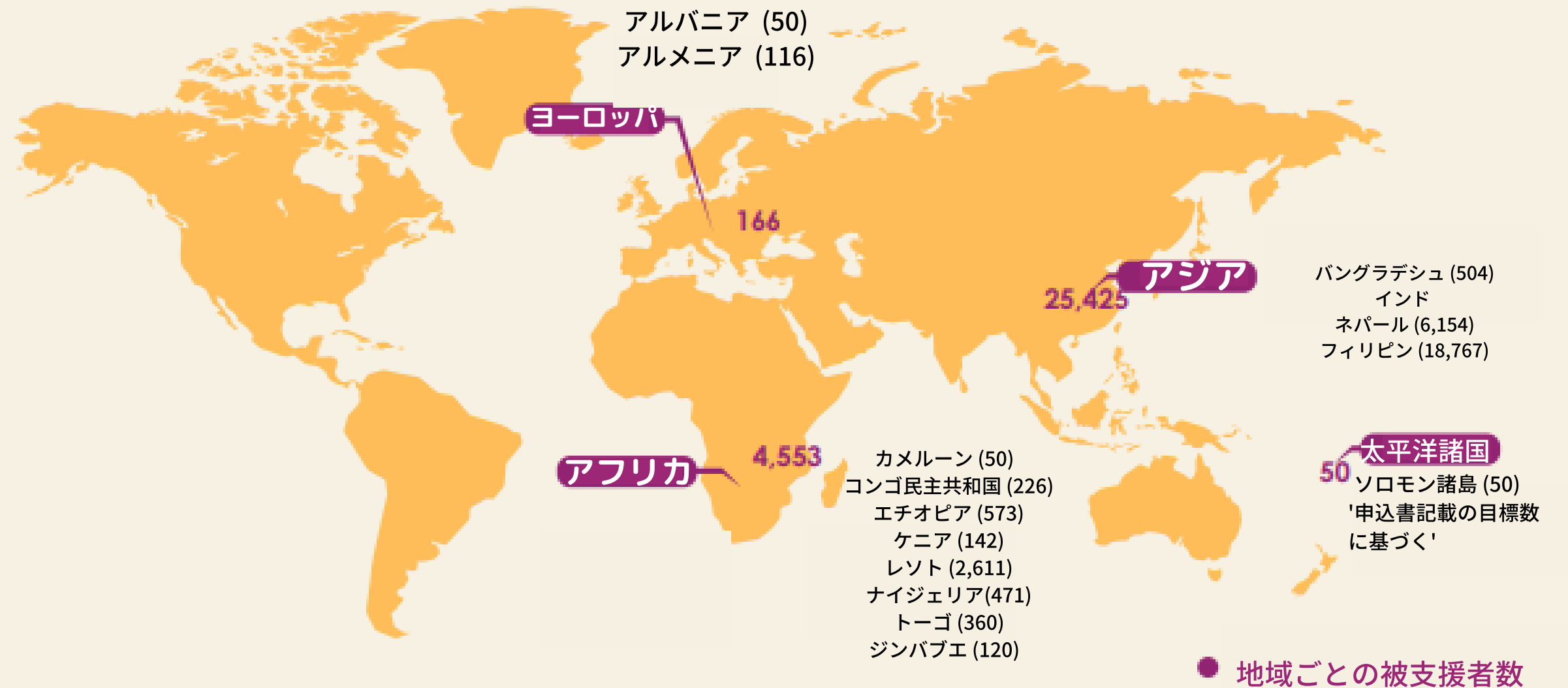
世界YWCAの目的は、すべての人の正義、平和、健康、人間の尊厳、自由、そして持続可能な環境を達成するために、世界中の女性と少女たちの力を結集し、リーダーシップを養成することです。

世界YWCAの新型コロナへの対応

世界YWCAは、世界8地域(アフリカ、アジア、カリブ海地域、ヨーロッパ、太平洋地域、ラテンアメリカ、中東、北アメリカ)の100以上の国々で、女性、若い女性、少女たちの生活に有益な役割をはたしています。

2020年、募金キャンペーンとして新型コロナ危機対応基金(COVID-19 Crisis Response Fund)を立ち上げました。このキャンペーンの主な目的は、コロナ禍への対応について、すべての地域の加盟YWCA、特にコミュニティの中心部や世界で最も弱い立場に置かれた地域の加盟YWCAを支援することでした。世界YWCAのリーダーの尽力や世界YWCAの資金調達により、少女、若い女性、女性たちのニーズが、従来の援助源や政府によってではなく、現地で充足されるようになりました。

また、ブレッド・フォー・ザ・ワールド(Bread for the World/世界のためのパン)、そしてプログラムパートナーであるフィンランド政府からの追加資金援助により、さらに15以上の国々において、何千人もの女性、若い女性、地域の人びとへも支援を伸ばすことができました。この件については、2021年度に報告いたします。



世界YWCAの新型コロナ危機対応基金キャンペーン中に調達された総額20,000米ドルの分配図(当該キャンペーンのもとでブレッド・フォー・ザ・ワールドとプログラムパートナーのフィンランド政府から2021年に利用予定の追加の助成を受けた)
 地域ごとの分配額: アフリカ(8カ国) 11,300米ドル、アジア(3カ国) 3,000米ドル、欧州(2カ国) 4,700米ドル、太平洋地域(1カ国) 1,000米ドル

新型コロナ危機対応基金



2035年目標と目標達成に向けた方策と計画の枠組（2020年～2023年）

コロナ禍にもかかわらず、世界YWCAは目標にむけて誠実に活動しました。

「2035年までに、1億人の若い女性と少女が正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるために権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能なYWCA運動を先導します。」

2015年に採択された大胆な**2035年目標**は、若い女性や少女たちを中心に据えるという根本的な信念を確認し、運動の未来や持続性へのコミットメントを明示しています。

2020年から2023年の4ヵ年計画に先立ち2019年から2020年の1年間において、世界YWCAはYWCAリーダーたちによって採択された以下3つの優先課題を、**目的達成に向けた方策と計画の枠組2020-23**として積極的に進めました。

- 2035年目標達成に向けたマネージメントとガバナンスの強化
- 2035年目標達成に向けたパートナーシップとコミュニケーションの促進
- 2035年目標達成に向けた少女、若い女性、女性たちの運動への参画および結集

世界中の加盟YWCAとそのリーダーたちが、それぞれのコミュニティに良い変化をもたらしつつ、協働して大胆かつ変革をもたらす2035年目標の達成を確実にするためにこの枠組を策定しました。

「そして私は、『「女の子だからといって、縛られない。」と答えました。自分のことは自分が一番よくわかっています。私は自分の人生で頑張って、なりたい自分になります。私はなんでもこなせるので良いリーダーになれます。私は勇敢で変革をもたらすリーダーです。私たちの夢への障壁として立ちはだかっているあらゆる法律や不文律を打ち壊す必要があるのです。そう！私が生きている社会は初めからシニカルなのです。でも！私はあらゆるギャップを利用して、自分の意見を聞いてもらいます。」

ナイジェリアのYWCAユースリーダー
アデエゼ・ムオニエル（Adaeze Muonyelu）



2020年における目的達成に向けた方策と計画の枠組を前進させた主な方策



世界中のYWCAリーダーのためのバーチャル・セーフ・スペース、リーダーシップ・プログラム、アドボカシー・プログラムを策定



活気があり充実したコミュニケーションと透明な組織運営の実施



コロナ禍でとりわけ高まった、メンタルヘルス、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、平和と正義を含む重要な課題に関するキャンペーンの実施



すべての運動を説明責任原則に即して実施



運動強化のための財政運営の向上



ジェンダー平等への闘いにおけるYWCAの認知度と基本的な役割向上のためのブランド力の推進



若い女性の声を前面に出した資金調達キャンペーンの実施



運動の力を最大限に活用するための運動の内外における強固で持続的なパートナーシップの構築



若い女性に焦点をあてること、および貴重な知識とメンターシップを提供する世代を超えたリーダーシップの重要性を継続的に認識すること



若い女性リーダーたちの運動への参画と、そこから学ぶことの評価、それによる世界YWCAとパートナー団体およびリーダーたちの将来の活動の向上

不測かつ深刻なコロナ禍にもかかわらず、世界YWCAは素晴らしい成果を収めました。2019年に世界YWCAが採択した目標達成に向けた方策と計画の枠組とその成功のための条件をここに明確に表明します。

重要ポイントを見てみましょう。

私たちの事業の活力とそのミッションの影響力を高めること

2035年目標には、世界YWCAも含めた権力構造変革のビジョンが示されています。権力構造を公平かつ公正に変革するには、説明責任が鍵となります。2019年、2020年において、事業の活力とそのミッションの影響力に気を配りながら、また若い女性たちと協働しながら、世界YWCAは高度な説明責任と優れたマネジメントの規範を示し続けてきました。そしてYWCAの運動を最新化し、かつ継続させるために、世代間を超えた参画を理解し利用するという方向性を示してきました。

2020年度の満足度調査によると、受理した152の回答のうち、それぞれの優先課題実行に対する満足度は以下の通りです。

優先課題-1

2035年目標達成のためのマネジメントとガバナンスの強化

満足度 81%

優先課題-2

2035年目標達成のためのパートナーシップとコミュニケーションの促進

満足度 89%

優先課題-3

2035年目標達成のためのする少女、若い女性、女性たちの運動への参画と結集

満足度 89%

重要ポイント

世界的コロナ禍に対し、世界YWCAはダイナミックに対応しました。

2020年には、コロナ禍への対応が最優先事項となったことにより、世界YWCAは活動形態をシフトし、各地のYWCAに緊急危機支援を提供し、危機コミュニケーション計画を作成しました。ジェンダー平等や女性の権利に関する変革を有意義なものにするためには、女性の声が最も反映されないコミュニティに焦点を当てなければならないということがわかっています。私たちの緊急対策は、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）、メンタルヘルスや平和に関する事柄など、コロナ禍から連鎖的に起こる影響にさらされたコミュニティの核心部に対して重点的に行われました。加盟YWCAのほかYWCA活動に広く参画している外部団体とも協力して**多言語資源**とツールを開発しました。

世界YWCAは全8回の**#YoungWomenLeaders**というバーチャル会議を主催しました。そこでは、若い女性リーダーたちが、新型コロナウイルス感染症に関する地球規模の対話において、それまでほとんどまったく出てこなかった彼女たちの経験や声を共有する場が提供されました。その他にも、YWCAの若い女性リーダーたちによってたくさんの会議が地域や国のレベルで開催されました。

コロナ禍の影響はNGOの分野にとって甚大でした。というのも社会事業に対する需要が増えた一方、リソースや多くの収入源が減少または中断されたからです。その結果、世界YWCA運営委員会は例外的に3分の1(33%)の加盟費の減額を認め、各地のYWCAはそれぞれのコミュニティにおけるコロナ対策にあてる現金の配分をやり直し、活力と持続力を確保することができました。

“

「内戦に加えて、これまでも既存の問題を抱えていた若者がコロナ禍によりさらに苦しんでいることが気の毒でなりません。多様性や包括性を達成するために、そしてフェミニスト運動を促進するために、私たちはあきらめることなく、連帯して立ち上がらねばなりません。」

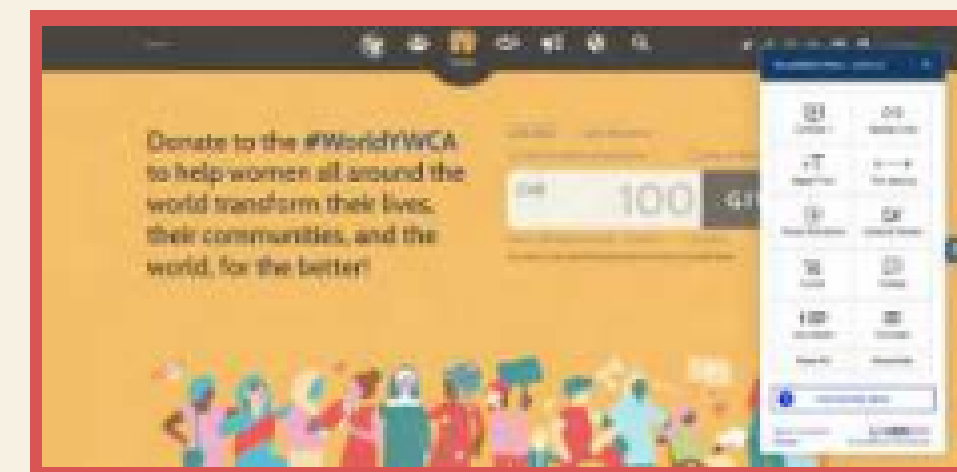
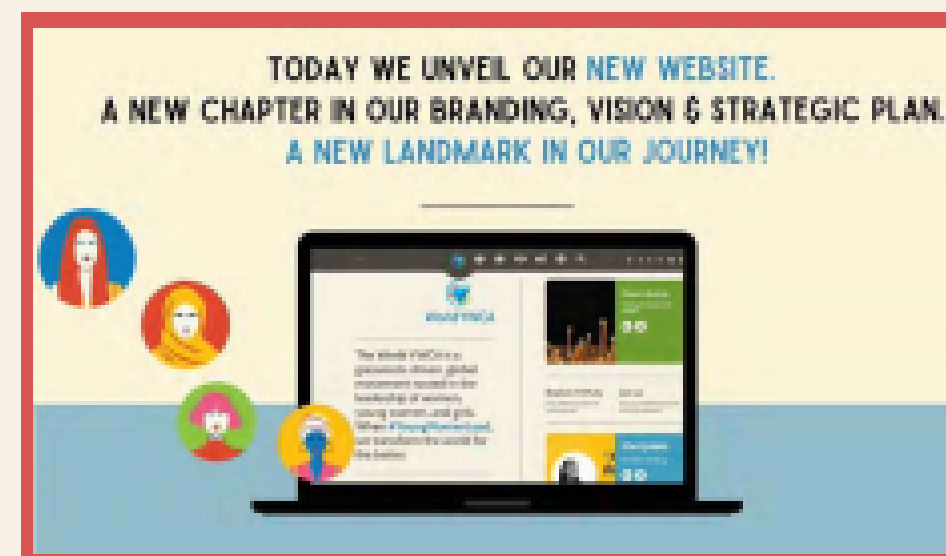
スリランカのYWCAユースリーダー
コサリナ・ヴィグナラジャ (Kosalina Vignarajah)



世界YWCAは運動全域でグローバル・カンバセーションと説明責任を強化しました。

内部での相互会話と説明責任の強化は運動の構築と維持に不可欠な要素です。ニュースレター、バーチャル・ミーティング、グローバル・コミュニケーション・グループ、そして視覚障がいの方や多言語翻訳にも対応し、すべてのYWCAメンバーが利用できる**新しいウェブサイト**などのデジタルツールを開発してきました。世界YWCAは内外の関係者と相互に尊重しあい、オープンでガラス張りのコミュニケーションを確かなものにするために、**フィードバック**と**苦情**に関する方針を策定しました。

世界YWCAのスタッフは、YWCAの関係者に対して説明責任を果たすためのダイナミックな方法を模索するために**アカウントブル・ナウ (Accountable Now)** * が運営する研修に参加しました。また、セーフガーディング・ピアア・アドバイス・グループ (Safeguarding Peer Advice Group) にも加わり、世界YWCAの内部告発システムの潜在的な改善点を特定する作業を協働でおこないました。




世界YWCA は、若い女性リーダーたちの運動への参画を推進するため、プラットフォームを拡充し機会を増やしました。

若い女性リーダーやチャンピオンたちが世界YWCAにおけるイニシアチブを思い描き、企画し、実行することを保証するための新しい取り組みは、今や標準となりつつあり、2020年に大いに進展しました。私たちは女性が主導した以下を含む、多くのイニシアチブの実施方法を素早くバーチャルに切り替えました。#MyBodyMyMindキャンペーン、YWCA非暴力週間（Week Without Violence Campaign）、ジュネーブ平和週間（Geneva Peace Week）、ジェンダーによる暴力に反対する16日間行動（the 16 Days of Activism against Gender-based Violence）などです。若い女性たちに耳を傾け、そして、彼女たちが声をあげるためのプラットフォームを提供しました。ソーシャルメディア、バーチャル討論会、バーチャル・セーフ・スペースなどです。また、これらへのアクセスが難しい人々に対しては金銭的な援助もおこないました。

「各国YWCAと地域YWCAに共通している課題は、女性、若い女性、そして少女たちが経験する逆境の波に立ち向かう日々の闘いです。YWCAは、若い女性や少女たちひとりひとりに、過去とこれからの思い描く未来の両方の人生を探究する機会を与えるよう尽力しています。」

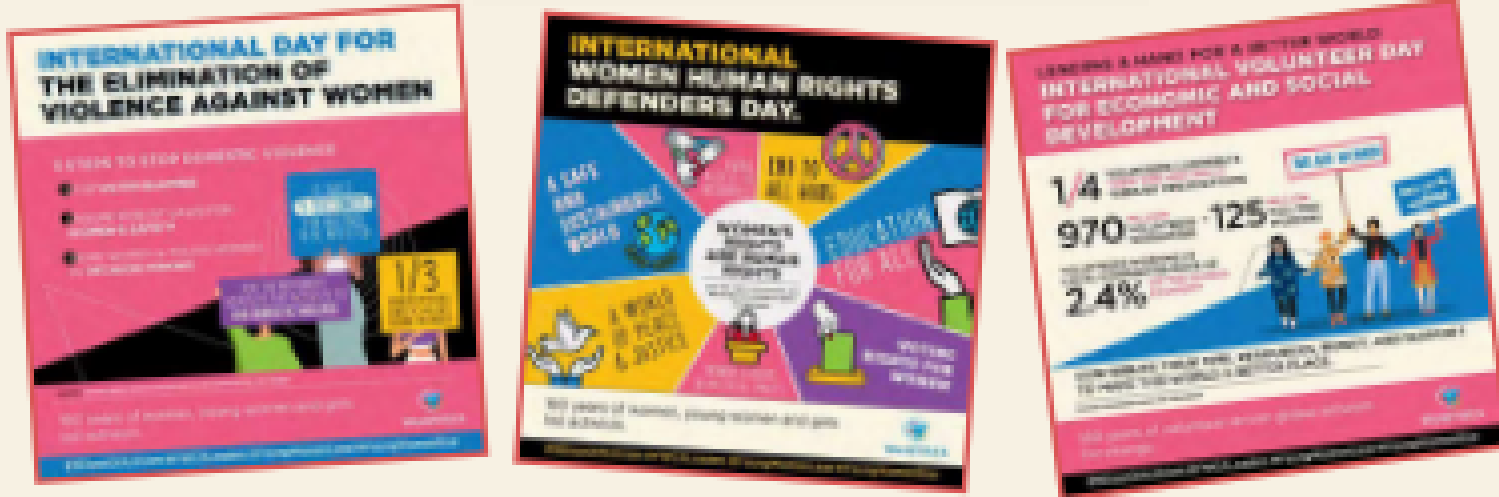
アルメニアのYWCAユースリーダー
アシュケン・アスリキヤン (Ashkhen Aslikyan)



ジュネーブ平和週間（Geneva Peace Week）



ジェンダーによる暴力に反対する16日間行動（the 16 Days of Activism against Gender-based Violence）



具体的な例としては、世界各地YWCAのコーディネーターによって活用されている、**#MyBodyMyMind**キャンペーンが挙げられます。世界YWCAは、性と生殖に関する健康と権利（SRHR）とメンタルヘルスへのアクセスを持つことが、女性や少女たちが自身の潜在能力を発揮するために絶対的に必要であると考えています。また、女性、若い女性、少女たちが現状を変えるために必要な情報やサポートを受けたり、仲間とつながりそれぞれのコミュニティで影響を及ぼせるよう、安全な場所と機会を提供しています。フィンランド政府の援助を受け、世界YWCAは、若い女性たちが**自身の権利についてより理解を深め**、古くからの支配的な認識に立ち向かいながらジェンダー平等への影響力を発揮できるよう、SRHRとメンタルヘルスに関連するオンライン・キャンペーンを行い、ツールキットを開発しました。これらすべての資料は、**アジア、アフリカ、東欧、太平洋地域**の各国YWCAリーダーから寄せられた実際の出来事から着想を得て作成されました。

世界YWCAは、YWCAリーダーたちの要請で、**アフリカ、アジア、東欧**の若い女性たちにデジタルやソーシャルメディアを利用したキャンペーンやアドボカシーに関するトレーニングをおこないました。トレーニング参加者たちは、各自の地域キャンペーンに参加の際にトレーニングで学んだことを活用しました。



世界YWCA は運動の最新化と事業の将来性のために現在を振り返りました。

世界YWCAの新しい運営委員会メンバーの60%が若い女性です。現在、対面することが不可能ですが、オンライン上で職務を担ってもらえるよう改革しました。

パワーダイナミクス、ガバナンスの改革と最新化といった主要課題に取り組む複数年のプロセスの一環として、世界YWCAは、第2回国際市民社会センターの**パワーシフト・ラボ（Power Shift Lab）**に参加しました。

若い女性のリーダーシップの構築と権力構造の変革—外部パートナーと多方向コミュニケーションを通じて

世界YWCAは、若い女性のリーダーシップ育成とジェンダー平等のため権力構造の変革という共通の願いを持ち、ともに方策の実現を目指す外部パートナーシップを積極的に求めることで、女性運動におけるYWCAの強みとアイデンティティを検討、確認、位置づけし続けてきました。運動内外での協働と透明性を促進するため、多方向コミュニケーションに注力し、コロナ禍への対応策として革新的なデジタル・プラットフォームを迅速に構築しました。

重要ポイント

世界YWCAはYWCAのアイデンティティと女性運動における特異な役割を確認しました。

私たちは、世界で最大最古の女性の権利運動団体として、若い女性たちに焦点を当てながら、その地位を確かなものにしています。多くの若手リーダーたちが、YWCAの代表者として、北京+25 ユースアクションフォーラム (Youth Action Forum of Beijing+25)、SDG アクションゾーン (SDG Action Zone)、国連ユース・エンボイ事務所の若い女性の政治参加イベント (the Office of the UN Youth Envoy's Young Women's Political Participation event)、ビッグ6の若者が主導する協議などの場で、多様に富んだ自身の知恵や経験を共有しました。

“

「私は、若い女性や少女たちのより良い明日に向けての先陣を切る革命家の一員となることを切望していました。私は物事を成し遂げる術とコミュニティの中で良い変化を持続させるスキルを学びました。」

ザンビアのYWCAリーダー
ルーシー・マシエ (Lucy Masiye)



世界YWCAは、その認知度を高めるため、ブランド力とソーシャルメディアへの参画を強化しました。例えば、若者たちの声を新型コロナについての議論の場に取り入れるため、意図的に若者のみを対象としたプラットフォームを立ち上げました。

これには、以下の事例が含まれます：

- ・コロナ禍において、「**考え、分かち合い、声をあげる**」(We Think. We Share. We Speak.)というテーマのもと、女性たちに安全で革新的なオンラインプラットフォームを提供し、世代を超えたバーチャル・セーフ・スペースで、世界YWCAデーを祝いました。

- ・**世界YWCA非暴力週間**では、新型コロナが、ジェンダーに基づく暴力(GBV)に及ぼす影響に焦点を当てました。

- ・**ジュネーブ平和週間**では、紛争下でGBVに関する問題に取り組む4人の若い女性によるポッドキャストがおこなわれました。

- ・YWCAのすべての年間キャンペーンとリンクし、政府や政策立案者に政策提言への対応を求める**16日間行動グローバルキャンペーン**をおこないました。

世界YWCAは、国連安全保障理事会決議第1325号(UNSCR1325)の20周年にあたり、平和と正義のアジェンダを公に推進して平和におけるYWCAの世界的な役割を共有し、よりジェンダーに対応したアプローチとコミュニケーションや人道支援の取り組みへのリソースの提供を呼びかけました。さらに、より大きな呼びかけをしたのは、すべての停戦交渉に**女性平和構築者**を含めることでした。

「私たちは、もし女性が最初から和平プロセスの一員であったなら、恒久的な平和が達成されるであろうと信じています。」

南スーダンのYWCAユースリーダー
メアリー・ファティヤ (Mary Fatiya)



この1年を通して、私たちは**アメリカ、レバノン、ベラルーシ、アルメニア**の各国で、平和と安全について提唱してきました。例年通り、世界YWCAはパレスチナYWCAとのパートナーシップのもと、**パレスチナ人民連帯国際デー (International Day of Solidarity with the Palestinian People)**を記念し、NGOを代表して国連で共同声明を発表しました。今年の声明は、世界YWCA総幹事ケイシー・ハーデンが読みました。

また、世界YWCAは、ガールズ・グローブ（Girls' Globe）やセイフティ（Sayfty）といった同様の価値観を持つ若い女性の組織と提携し、デジタル・プラットフォームを通して声をあげています。国際的なYWCA運動の認知度を上げるため、**ケイシー・ハーデン**総幹事は多くの機会を進んで利用しました。**国際ジェンダー・チャンピオン（International Gender Champions）** ネットワークに招かれ、アクト・アライアンス（ACT Alliance）の理事となり、45名の宗教指導者と信仰に基づく組織（Faith-based Organizations/FBO）の代表からなる、非公式で任意団体である国連多宗教諮問委員会（United Nations Multi-faith Advisory Council/MFAC）ジェンダー作業部会の共同議長に就任しました。

世界YWCAは、「運動」と世界の女性運動への最適な貢献のあり方を見直しました。

私たちは、フェミニズムや差別の交差性に関する重要な用語を定義した「用語集」やセーフ・スペース・モデルなど、重要な多言語ツールを運動全体の女性たちと共に開発しました。**バーチャル・セーフ・スペース** ツールは、2020年末時点で、インド、エチオピア、ケニア、フィリピン、タイを含めた国々の150人以上の若い女性たちに利用されています。

#LeaderSpotlightや#DonorSpotlightなどの複数のイニシアチブには、運動の内外で女性や若い女性たちの体験談や生の声、アドボカシー活動を継続的に取り込みました。以下がその例です。

- ・「若い女性が性と生殖に関する健康と権利とメンタルヘルスに関する古くからの言説を変えていく」（Young Women Changing Narratives on SRHR/Mental Health）イニシアチブにはフィンランド政府のサポートによる資金援助を受け、アジア、東欧、アフリカという3つの地域の25カ国で1000人以上の若い女性たちが参加しました。

- ・#MyBodyMyMindキャンペーンをきっかけに、世界YWCAは、アフリカ、アジア、東欧の活動家らの主導のもと、行動を呼びかけるキャンペーンのためのデジタル・プラットフォームの使用法トレーニングを開始しました。中心的な国である、エチオピア、ケニア、ネパール、ウクライナの4カ国においては、SRHRとメンタルヘルスの問題に取り組む若い女性たちを支援する2つのモバイル・アプリケーションの作成など、現場でのプロジェクトの実績を共有しました。

“

「パレスチナ人民と連帯する国際デーにおいて、世界キリスト教女子青年会（世界YWCA）とその加盟団体であるパレスチナYWCAは、国連加盟国に対し、パレスチナを独立国家として承認を遂行し、現在の占領状態を過去の歴史とする道義的、法的義務があることを注意喚起します。

私たちはパレスチナの姉妹や兄弟と連帯しており、占領下では正義や平和がなく、持続可能な発展の可能性もないということを再確認しています。」

”

世界YWCA総幹事
ケイシー・ハーデン



世界各地のYWCAは目的達成のためのパートナーとして一体となり活動しています。

YWCAはグローバルに連携しながら活動をおこなっています。現在のコロナ禍の状況にもかかわらず、世界YWCAは多額の助成金を受けることができました。

— 「若い女性による気づき、行為主体性、提言、説明責任 (Young Women for Awareness, Agency, Advocacy and Accountability (YW4A)) 」によるインターセクショナルなイニシアチブに対してのオランダの外務省からの助成金 (5年間で11,200,000ユーロ相当)。このイニシアチブの目標は若い女性たちに享受されるべき人権への意識を高め、提唱し、各国政府に若い女性の人権に対して責任を求めることにあり、特に重点が置かれているのは、若い女性のリーダーシップ、社会的包摂、性とジェンダーに基づく暴力 (SGBV) 問題です。エジプト、ケニア、パレスチナ、南スーダンにおける市民社会スペースを拡充するため、世界YWCAは世界各地のYWCA、外部の地域女性人権団体 (WROs)、信仰に基づく組織 (FBOs)、研究者、政策提言専門家との連携を主導しています。また、利用の拡大に充分対応できる若い女性のリーダーシップ・プログラムやアドボカシー・プログラムを開発し、世界各地のYWCAが活用できるようにすることを目指しています。

— 主にオーストラリア外務省 (DFAT) による世界YWCAの2035年目標達成への鍵となる「**ライズアップ! (Rise Up!) リーダーシップ養成プログラム**」に対する助成金 (4年間で6,000,000オーストラリア・ドル相当)。

このプログラムの成果のモニタリング、評価そして学習 (monitoring, evaluation, and learning/MEL) からなる枠組はアジア太平洋地域の若い女性たちにより再設計され、あらゆる年代のリーダーの活動への参加、フェミニスト・デザイン原則に基づいたMELの開発、若い女性の仲間や賛同者の育成等に対する支援が可能になりました。これは2021年中に実施開始予定で、アジア太平洋地域の3カ国を含む全9カ国で、総勢数千人の若い女性と少女の参画を目指しています。

— 世界YWCAと南スーダンYWCAが主導している**Y-グローバル (YGlobal project)**

は「若い女性の変革をもたらすリーダーシップを可能にし、平和で公正な世界を声を高くし求めること」を目的としていました。しかし、コロナ禍のため、その目的の見直しが行われました。その結果、共同で再定義し、トレーニングとスキルアップ・イニシアチブの促進の機会を若い女性たちに提供することに重点目標を置くことになりました。

一年間を通じて、世界YWCAは引き続きジュネーブのエキュメニカル・ファミリーの一員として、もろもろの取り組みに携わり、また**世界教会協議会 (the World Council of Churches)** の活動にも積極的に参加しました。例えば、エキュメニカル祈禱サイクル (Ecumenical Prayer Cycle) やレイプや暴力のない世界を目指す黒衣の木曜日キャンペーン (Thursdays in Black: “Towards a world without rape and violence” Campaign) への参加です。11月には、エキュメニカルな取り組みであるジェンダーによる暴力に反対する16日間行動にも加わりました。2020年度の祈りと振り返りは、神の家と私たちの家庭を安全で愛情のある場所にするという根本的な必要性との繋がりを浮き彫りにしました。もろもろのバーチャル・イベントを始め、灰の水曜日 (Ash Wednesday) やアベント週 (Week Advent)、そしてキリスト教一致祈禱週間 (Week of Prayer for Christian Unity) 等の年間の祝祭日にも携わりました。

「自分が『権利』を持っていることすら知りませんでした。大胆にふるまい、変身ができるようになるためには、周りのみんなの仲間に入れてもらい、敬意を示してもらい、スキルを持ち、関与させてもらい、他の人々とつながっていること……いつも『私できるわ!』、他の人々ができるのなら、『私にできないはずがないでしょ!』と思うこと。」

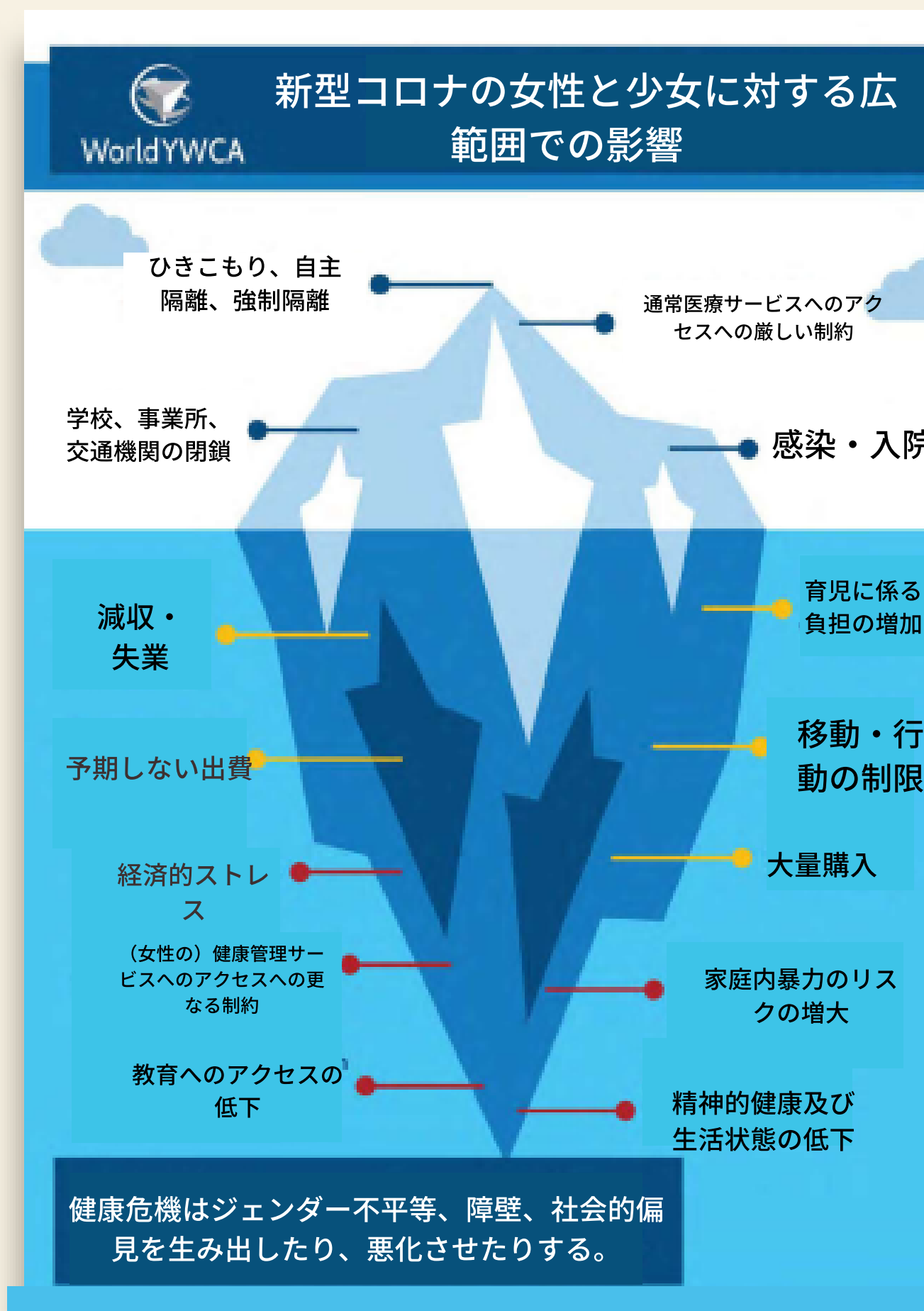
ソロモン諸島のYWCAユースリーダー
クラリーン (Clarine)

世界YWCAオフィスは加盟YWCAの支援資金調達のため**危機対応基金**を開設しました。これにより、14の加盟YWCAがそれぞれの地域コミュニティを援助することができました。この年次報告書の冒頭で述べたように、右の**氷山の図**に書かれている諸問題に重点を置き、資金調達をおこないました。この図には目に見える、あるいは、見えない新型コロナの女性、若い女性、少女たちへの影響が描かれています。

資金調達と並行して、世界YWCAは更なる資金供与を受けました。

-**ブレッド・フォー・ザ・ワールド**から、以下の8カ国（アルメニア、バングラデシュ、ギリシャ、インド、ケニア、マダガスカル、ナイジェリア、フィリピン）のYWCAへ2020年12月から2021年3月の間に特定割当形式で資金が供与されました。

-**フィンランドの外務省**から、2018年以降引き続き、「若い女性が性と生殖に関する健康と権利とメンタルヘルスの古くからの言説を変えていく」イニシアチブに対して、地域YWCAを含む以下の9のYWCA組織に資金が供与されました。アルメニア、ブルキナファソ、カメルーン、ホンジュラス、インド（シカンダラバード地域YWCA）、ミャンマー、パレスチナ、ウガンダ、ザンビア。（期間：2020年12月から2021年4月）



世界YWCAは年度末募金キャンペーンも実施しました。そこでは運動のリーダーである**ルーシー(Lucy)**、**ティナ(Tina)**、**ヴェラ(Vera)**、**サトコ(Satoko)**、**アシュカン(Ashkhen)**がそれぞれの個人的な話を語ってくれました。このイニシアチブにより、世界YWCAはリーダー、パイオニア、提唱者、そして闘士の育成団体としての位置を獲得しました。

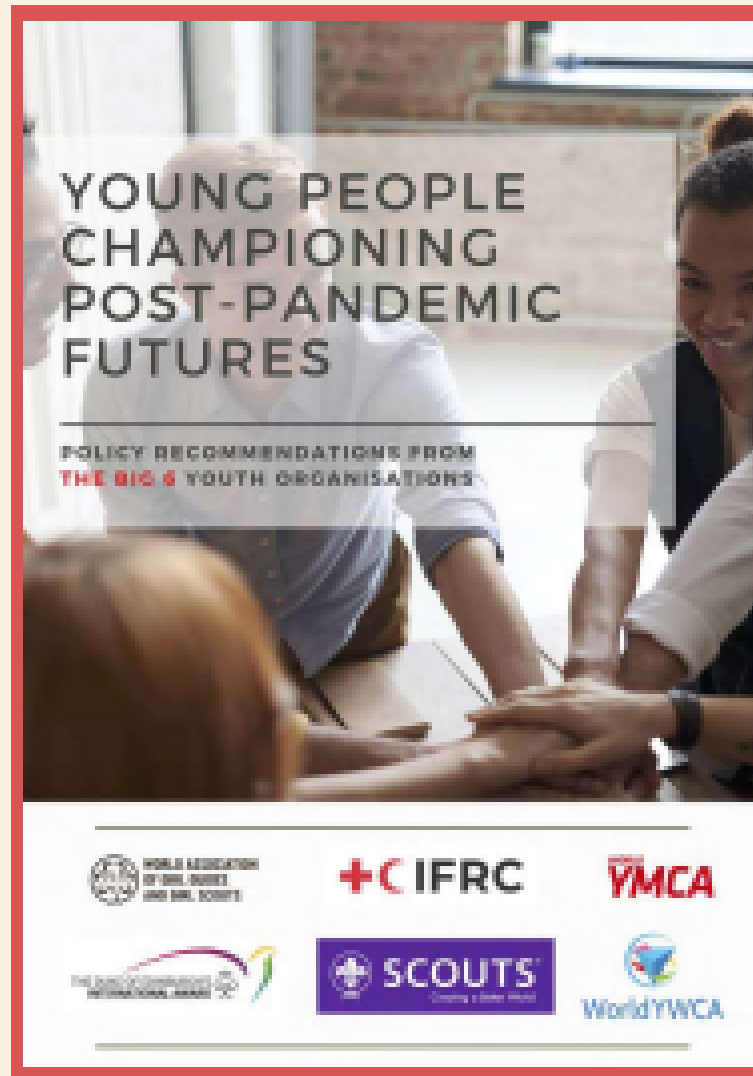
資源動員をさらに強化するために、世界YWCAは**ガイドスター**の透明性シールをゴールドレベルにアップグレードしました。これにより助成金提供者に対し、世界YWCAが確実に説明責任を果す組織であることの明らかな証となると考えます。

世界YWCAと加盟団体はジェンダー平等のために権力構造の変革を望む外部パートナーを求めました。

世界YWCAオフィスは、ビッグ6、国連青年特使（UN Youth Envoy）、多くのエキュメニカル団体や市民社会団体とのパートナーシップを加速しました。例として、ビッグ6とのパートナーシップの結果、世界YWCAは：

・ **ポストパンデミックの世界での若者に関する政策提言書**を共同発行して、若者に影響をおよぼす緊急の問題を示し、彼らに関与させることが持続可能な世界にとっていかに重要であるかについて主要な政策提言をおこないました。

・ 若者と新型コロナの言説を変えるにあたり、WHOと国連財団（UN Foundation）と共にグローバル・パートナーシップへの取り組みである「グローバル・ユース・モービライゼーション（Global Youth Mobilization）」を立ち上げ、若者主導の解決策へ投資する必要性を強調しました。このプロジェクトは世界YWCAの2035年目標達成に重要であり、単により多くの若い女性に手を差し伸べるだけでなく、彼女たちが現場で改革やリーダーシップを実践するための資源を提供するためです。WHOのテドロス博士によって**公式に発足し、2020年12月の世界に向けた記者会見**にはケイシー・ハーデン総幹事が世界YWCAを代表して出席しました。各国での計画への呼びかけは2021年に始まり、YWCA加盟団体には総額で20万米ドル以上が提供される予定です。



「他の国々と同様にコロナ禍は Bangladesh にも広がりました。現在教育機関はすべて閉鎖されていて、私はビリシリの村にある家にいます。私はビリシリYWCAによる様々な若者の活動とプログラムに参加しています。コロナウィルスに対し、消毒薬や安全啓発キャンペーンでコミュニティを支援しました。私たちが良い仕事をすれば、次の世代の若者に刺激をあたえ、他の人に奉仕する気にさせると信じています。」

スログナ・レマ（Sulogna Rema）
ビリシリのYWCAユースリーダー

2年目にむけて、世界YWCAは国際的なエキュメニカル運動の一端を担い、運動に貢献する目的達成に向けた取り組みを効果的に進めるために、エキュメニカル・パートナー諸団体との関係の再構築を引き続きおこないました。例として、

- ・世界中のYWCAや、ありがとうインターナショナル(Arigatou International)、ルーテル派世界連盟 (the Lutheran World Federation)、アクト・アライアンス、ジュネーブ・スコットランド教会 (Geneva Scottish Church)、世界教会協議会といった国際的なエキュメニカル団体のパートナーと共に、**世界祈祷日の礼拝**に参加しました。

- ・1904年から世界YWCAと**世界YMCA同盟 (World YMCA)** は伝統的に世界祈祷週とワールド・フェロシップ(World Fellowship)のために協力してきました。2020年には**世界教会協議会、アクト・アライアンス、ありがとうインターナショナル、世界祈祷日国際委員会 (World Day of Prayer International Committee)** と**ジュネーブ・モラビア教会 (Moravian Church Geneva)** を含むエキュメニカル団体や個人からの支援を受けました。日本やザンビア等34ヵ国以上から3400人以上の若いリーダーたちをバーチャル・イベントに迎えました。

- ・世界教会協議会のイニシアチブである「エキュメニカルな祈祷のサイクル」(Ecumenical Prayer Cycle) と、「レイプや暴力のない世界を目指す黒衣の木曜日」キャンペーンに参加しました。11月には**ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間行動**に関連したエキュメニカルな取り組みにも参加しました。

- ・世界YWCAはアクト・アライアンスの一員として、そのメンバーと共に第1回**グローバル・フォーラム (the Global Forum)** の覚書を作成しました。

- ・世界YWCAオフィスは政策提言への共通のコミットメントに焦点を当て寄付者およびパートナーとして**クリスチャン・エイド (Christian Aid)** と長期的関係を継続しました。

- ・**世界YWCAは国連における宗教と開発に関する機関間タスク・フォース**の多宗教諮問委員会の新規ジェンダー作業部会で共同議長を務めました。

- ・世界YWCAと**ノルウェー・チャーチ・エイド (NCA)** は長年のパートナーシップを継続しており、若い女性とその賛同者がジェンダーに基づく暴力 (GBV) に反対し、平和な世界のために主導し提言できるようにすることに焦点を当てました。

“

「世界中の女性のために立ち上がれと心に燃え上がった炎はこのキャンペーン期間中、終始燃え盛っていました。」

”

インドのYWCAユースリーダー、フィンランドとのSRHRとメンタルヘルス・プロジェクトについて
ナムラタ・シャルマ (Namrata Sharma)



少女、若い女性、女性たちの参画と結集

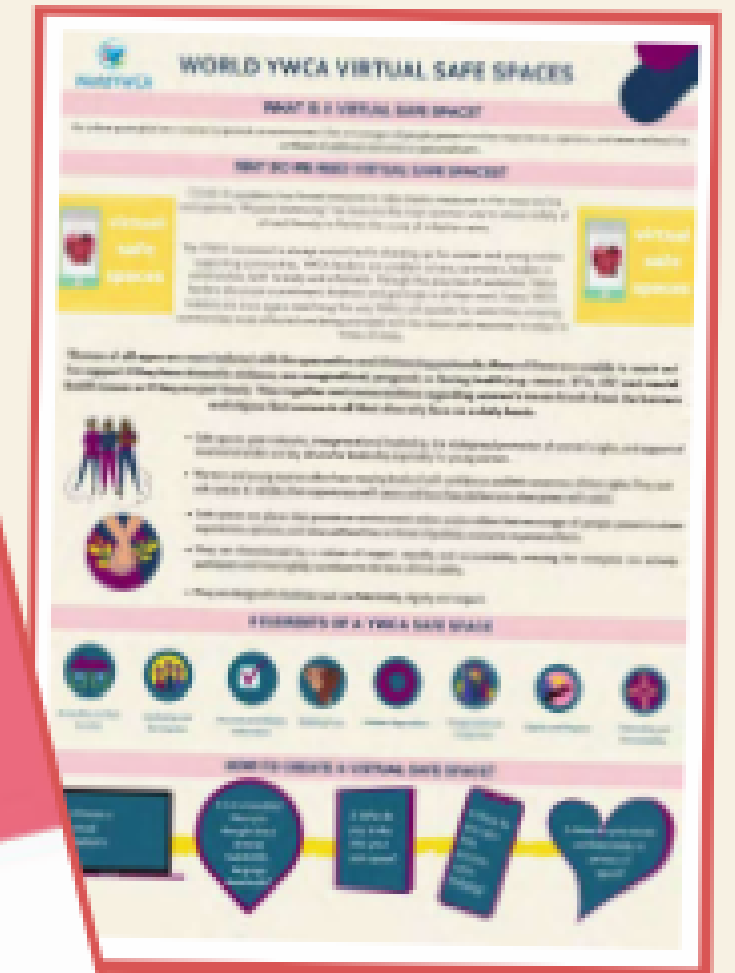
私たちは、YWCAの伝統や取り組み、原則を尊重する効果的なリーダーシップやアドボカシー活動のモデルを築き、発展させ続けてきました。そしてさらに世代を越えた世界のリーダーの大規模なネットワークを作り出すために、若い女性や少女たちによる活動、コンサルテーション、リーダーシップに根ざした革新的で低コストの解決策を促進してきました。

重要ポイント

世界YWCAは、リーダーシップとアドボカシー活動のためにモデルプログラムとしてライズアップ・ガイドとセーフ・スペースを提供しました。

若い女性のリーダーシップのモデルに関心をよせるYWCAの会員や外部組織のために、YWCAのリーダーたちの意見を組み入れてライズアップ・ポケットガイドを改定しました。このモデルは、YWCAのリーダーシップ・コホート2020（Leadership Cohort 2020）を設計、提供するために選択されました。このプログラムは世界YWCAの有償インターンの若い女性がリーダーシップのスキルを築くためのものです。

バーチャル・セーフ・スペースは地域を越えてYWCAと若い女性が利用できる革新的で多言語対応のツールです。特にコロナ禍によるロックダウン中において、パートナー機関や若い女性がバーチャル・セーフ・スペースに高い関心を示し利用する割合が上昇しました。世界YWCAは現行のライズアップの知識を取り入れながら女性、若い女性、少女たちが現在直面している困難に対応できるように改良を加えて、2021年または2022年初頭に新しいライズアップを発行します。



世界YWCAは、リーダーシップとアドボカシー活動のモデルプログラムのためにライズアップ・ガイドとセーフ・スペースを提供しました。

セーフ・スペースを通じて若い女性が真にコンサルテーションを主導し、インターセクショナルでフェミニストの視点に基づいた問題解決を確実にするために、世界YWCAは若い女性と共にフェミニスト・コンサルテーション方法（Feminist Consultation Methodology）を築き上げました。コロナ禍により私たちの取り組みは変化を余儀なくされましたが、最終的にはその方法は一層強力なものになり、どのような危機または困難な状況下でもコンサルテーションを実践できるようになりました。2021年にライズアップとセーフ・スペースが完成するとYW4Aの実施時やフィンランド政府が出資したプロジェクトを評価する際に有益なツールとなるでしょう。またこれはどのような組織でも使用することができるものです。



「このフェミニスト・リサーチ方法は非常に包括的な資料であり、解りやすいものです。そして多くの組織や個人が調査をするために役立つと私は確信しています。これらのリサーチのプロセスに携わる若い女性のためにこの新しいライズアップやセーフ・スペースを築いてくれたYWCAに感謝しています。とても嬉しく思っています。」

ーコアグループ・メンバー 1,2,3段階
ニルマラ・グルング（Nirmala Gurung）



「私は多様な角度から思考することによりスキルアップし、そして実際にフェミニストの視点から考えることを身につけました。フェミニズムに関する経験や人生や活動に対する考え方について世界中の女性と話すことは非常に有意義でした。多くのさまざまな組織がこのツールを適用すること、そして意思決定の際に若い女性の意見が非常に重要であることを理解する人々が世界中で増えていくことを私は願っています。」

ーコアグループ・メンバー 1,2,3段階
ジュリア・ソフィ・ファン・ザイル（Julia Sophie Van Zijl）



世界YWCAは目的達成に向けて活躍しているYWCAユースリーダー、チャンピオン、インターンのネットワークを設立しました。

世界YWCAの若い女性チャンピオンのリストには、YWCAメンバーであるかないかを問わず運動に参加している多くの若い女性に加えられ、年間を通じてその人数は増え続けています。若い女性のリーダーシップに希望があることを示し、そして女性たちが影響力のある地位に就くことが世界にとって力強く、有益な影響をもたらすというメッセージとその実例を広く伝えるために、これらの若いチャンピオンは不可欠な存在なのです。

世界YWCAリーダーシップ・コホート2020は、世界YWCAを育成機関として持続可能なコミュニティのリーダーを養成します。そのプログラムはコロナ禍に対応してデジタル化し、そして今年は候補者を10名に増員しました。

She speaksのブログ（ネラト・パム-フウォロNerat Pam-Hwro, YWCA ナイジェリア；エディディヤ・アレン（Yedidiyah Allen）、YWCAトリニダードトバゴ；ザーラ・アル・ヒラリー（Zahra Al Hiraly）、YWCA オーストラリア；アダエゼ・ムオニエル（Adaeze Muonyelu）、YWCA ナイジェリア）ではより多くの若い女性の体験を読むことができます。また、YWCAはマスターカード財団奨学生プログラムから**3名のインターン**をバーチャルで迎え入れました。カナダのトロント大学から1名とアメリカの**コルゲート大学**から2名です。

「正義とジェンダー平等を成し遂げるうえで非常に重大な変化を生み出す組織の一員になれたことを嬉しく思います。」

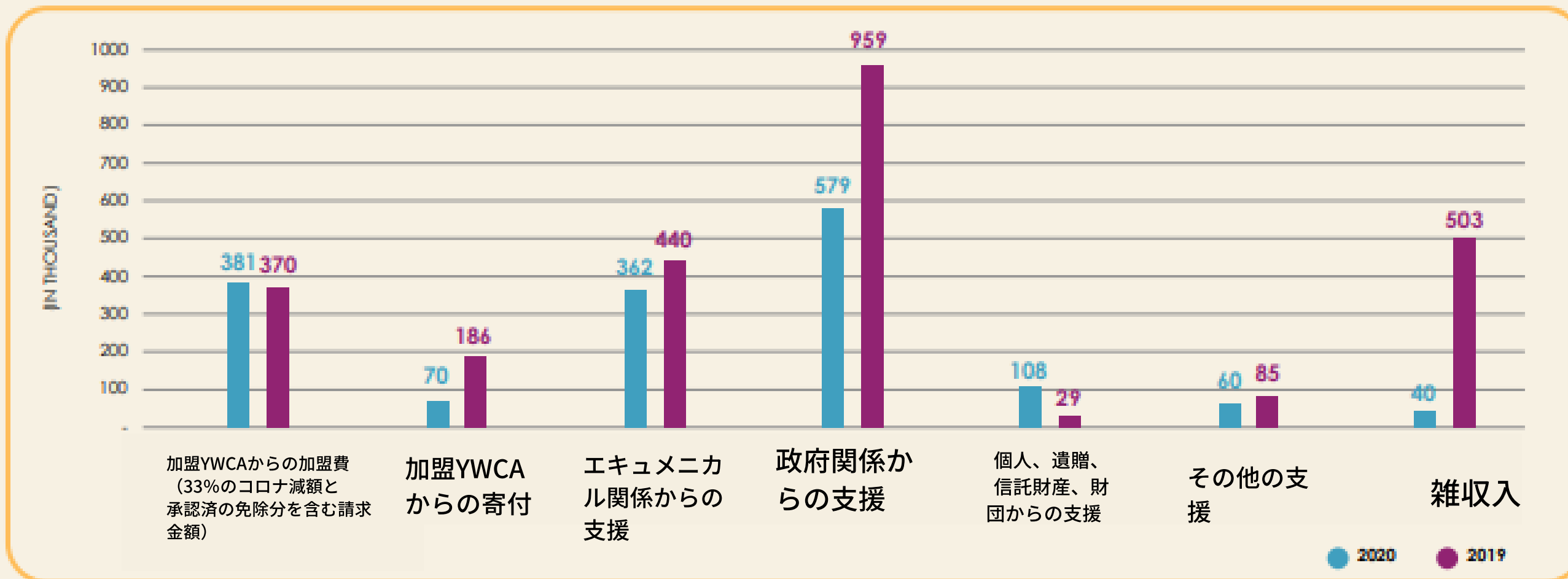
エチオピアの2020年度マスターカード財団インターン
サムラウィット・レマ（Samrawit Lemma）



財政—世界YWCAの重要な活動への資金調達方法

世界YWCAの2020会計年度の決算は適正なものであると監査報告され、総合的にみて予算に対してプラス効果がありました。世界YWCAの財政安定・活性化4ヵ年計画の1年目である2020年度は、コロナ禍によるマイナス影響はあったものの、顕著な好結果を残すものとなりました。予想通り、2020会計年度としては赤字ではありましたが、予算に対しては良い方向での差異が認められたのです。つまり、赤字は予算よりは37%少なく、前会計年度よりわずか17%増にとどまりました。このことは、コロナ禍により、YWCAの変動しうる収入源である加盟費が大幅に減少したことを考慮すると、非常に注目すべきことだと考えられます。

世界YWCA理事会は、すべての加盟YWCAに対して、加盟費の33%の一時減額を認め、ほぼすべての団体がこれを利用し、さらに追加の全額支払い免除を求めてきたケースも多くありました。世界YWCAの資源の結集のために投入され、また、変動しうる加盟費収入を増加させることに使われる予定であった時間と資源は、4ヵ年計画のニーズの遂行よりもむしろ新型コロナウイルスによる危機への対応のために活用することになりました。世界YWCAは、若い女性にフォーカスした2つの長期イニシアチブというミッションに対して資金調達に成功しました。



2021年度の活動プレビュー

世界YWCAは次のようなイニシアチブに重点を置いて活動します。

世界YWCAの活動を若い女性たちがリードできるようにサポートを続けます。たとえば、グローバル・ユース・サミット（Global Youth Summit）、第65回国連女性の地位委員会（CSW65）、16日間の行動、国連の国際青少年デーの若者によるイノベーション・フェスティバル（UN's Youth Lead Innovation Festival）などで声をあげ、全世界の何千人もの参加者の関心をひきつけ世界YWCAの運営委員会の60%を若者が占めることを目指します。

フェミニスト・コンサルテーション方法を発表します。より広い女性の権利や人権の分野、正しく合法的に若い女性たちの参加を求める他の分野に役立つものを作成します。

世界YWCAが構築してきたすべての重要なツールやリソースの商標や知的財産の保全に取り組みます。

運動を最新化します。これには、周縁化されたジェンダーやセクシュアリティの人々の交差性や社会包摂により重点を置くこと、革新的なデジタル・プラットフォームと多方向コミュニケーションの試用を継続することを含みます。

新しいブランド・ガイドラインによりYWCAの認知度を高め、世界の全ての加盟YWCAに対してトレーニングをおこないます。

YW4Aにより、若い女性の人権への意識を高め、提唱し、政府に対して女性の権利の確立に対して責任を問います。

女性たちがどこにあっても声をあげることができるようなセーフ・スペースを作ります。

リーダーシップ・コホート2021は若い女性のリーダーシップを養成するために、世界YWCAにおいて世界規模の育成機関としての実務研修を提供します。

グローバル・ユース・モビライゼーション（Global Youth Mobilization）は青少年主導による変革を目指す全世界的運動により、コロナ禍の現在、そしてコロナ後の世界で行動を起こします。

私たちのチーム

世界YWCA

業務部部長：アイダ・レフマ (Aida Rehouma)、スイス/チュニジア

世界YWCA総幹事：ケーシー・ハーデン (Casey Harden)、アメリカ

運動構築・強化部シニア・スペシャリスト：カテリーナ・レンプ・ビスアコプロス (Caterina Lemp Bitsacopoulos)、チリ

プロジェクト・スペシャリスト：ダニエラ・セラヤ・ラウダレス (Daniela Zelaya Raudales)、ホンジュラス

メンテナンス：フェリクス・アンユゾ (Felix Anyouzo'o)、カメルーン

財務・業務部シニア・スペシャリスト：ヘレン・デスラーゼス (Helen Deslarzes)、フィリピン

グローバル・エンゲージメント アンド インパクト部部長：スチ・ガウル博士 (Suchi Gaur Ph.D.)、インド

コミュニケーション・アソシエイト：タリサ・アバンタイ (Talisa Avanthay)、スイス/エクアドル

YW4Aパートナーシップ及びイニシアチブ統括者：サバニ・シバンダ (Thabani Sibanda)、ジンバブエ

財務アソシエイト：セヴェリン・ロメロ (Séverine Romero)、フランス

事務局及び業務部アソシエイト：ビクトリア・ジェネカンド (Victoria Genecand)、ブラジル

地域コーディネーター

Rise Up! アジア・太平洋地域コーディネーター：ナオミ・ボイエング (Naomi Woyengu)、パプアニューギニア

SRHR及びメンタルヘルス アジア地域コーディネーター：ニルマラ・グルン (Nirmala Gurung)、ネパール
SRHR及びメンタルヘルス、アフリカ地域コーディネーター：ジル・アナミ (Jill Anami)、ケニア

SRHR及びメンタルヘルス、ヨーロッパ地域コーディネーター：ヴェラ・シラクワシュ (Vera Syrakvash)、ベラルーシ

コンサルタント

アリサ・ウィスマー (Alisa Wismer)、アメリカ
バレリエ・アウイノ・オピヨ (Valerie Awino Opiyo)、ケニア
アスミタ・ゴシュ (Asmita Ghosh)、インド
シュルティ・カプール (Shruti Kapoor)、インド
ストーリー・シェア (StoryShare)、アメリカ
メーガン・キング (Meaghan King)、アメリカ
スティーブン・D・ジーマーマン (Steven D. Zimmerman)、アメリカ
マヌエル・キンテロ・ペレス (Manuel Quintero Pérez)、スイス
ジャン-フランソワ・デルテイユ (Jean-François Delteil)、スイス
リディ・ネギ (Ridhi Negi)、インド
サロー・デザイン (Thallo Design)、アメリカ
インフィニット・リサーチ・アンド・デベロップメント会社 (Infinite Research and Development Firm Ltd)、南スーダン

スニタ・セミ (Sunita Sehmi)、スイス
チャビ・ザクデブ (Chhavi Sachdev)、インド
アーダ・アガザリアン (Arda Aghazarian)、パレスチナ
ティナ・ブーフエ (Tina Bouffet)、カナダ/フランス
2626スタジオ (2626 STUDIOS)、インド
ホワイトルム・グループ (Whitelum Group)、オーストラリア
テッサ・ウォルシュ (キャロライン・ランバートと共に) (Tessa Walsh (with Caroline Lambert))、オーストラリア
ティファニー・ワン (Tiffany Wang)、アメリカ
ケビン・チロン (Kevin Chilon)、スイス
エベ・ジャンティロム (Eve Gentilhomme)、フランス

ボランティア

ヴァレリア・アリアーガ・メヒア (Valeria Arriaga Mejia)、ホンジュラス (ドイツ在住)
マーサ・ブルーニグ (Martha Breunig)、アメリカ
マリーナ・モンテロ (Marina Montero)、スペイン
ラファエル・ポラン・モレノ (Rafael Porlán Moreno)、スペイン

投資顧問グループ

ミュリエル・ジョイ-パトリー (Murielle Joye-Patry)、スイス
ヨエル・ベン・ハミダ (Joelle Ben Hamida)、スイス
ローレンス・レヴラ-ピクテ (Laurence Levrat-Pictet)、スイス
ドミニク・ドゥ・サンピエール (Dominique de Saint-Pierre)、スイス

運営委員会メンバー

2020-2023年期の運営委員会メンバー

2019年度の世界YWCA総会において、2020-2023年期の役員を新たに選出しました。

役員

副会長：カロライン・ミットトゥン・ロストルプ* (Caroline Midttun Rostrup) (ノルウェー)

副会長：エマン・アッバシ* (Eman Abbasi) (ヨルダン)

会計：エマ・マカーシー (Emma McCarthy) (オーストラリア)

副会長：イザベラ・マリア・ディアス・バスケス* (Isabella María Díaz Vásquez) (ホンジュラス)

副会長：ジェイミー・メディシン・クラネ (Jamie Medicine Crane) (カナダ)

副会長：ルーシー・マシエ (Lucy Masiye) (ザンビア)

副会長：ミミ・ハン (Mimi Han) (韓国)

会長：ミラ・リゼック (Mira Rizeq) (パレスチナ)

運営委員会メンバー

エイドリアンナ・ソーサ* (Adrianna Sosa) (ハイチ)

アンドレア・サクストン (Andrea Thaxton) (アメリカ)

バキタ・フランシス* (Bakhita Francis) (インド)

ブリタニー・ティボ* (Brittany Tibbo) (カナダ)

シャーロット・マゲリッジ* (Charlotte Muggeridge) (アオテアロア/ニュージーランド)

デデ・アティオグベ* (Dédé Attiogbe) (トーゴ)

エリカ・ルイス (Erica Lewis) (イギリス)

ガブリエラ・セルダ・オヤルセ* (Gabriela Cerda Oyarce) (チリ)

マルガレット・ジプ・ク (Margaret Jip Kou) (台湾)

ムティスングエ・カチングウェ* (Mtisunge Kachingwe) (マラウイ)

リッコール・ジュリエン* (Rickol Julien) (グレナダ)

イボンヌ・シュプバッハ* (Yvonne Schüpbach) (スイス)

2020-2023年期選考委員会:

デデ・アティオグベ* (Dédé Attiogbe) (トーゴ)

エマン・アッバシ* (Eman Abbasi) (ヨルダン)

ジャネット・ファン・ドンゲン (Jeannette Van Dongen) (オランダ)

ヴァレリア・ロハス・ボルダ* (Valeria Rojas Borda) (ボリビア)

ヨン・ヒー・ウォン (Young Hee Won) (台湾)



ありがとうございました

価値ある資金援助をして下さったYWCA運動内外のリーダーの方々に、心からお礼を申し上げます。

団体寄付者及び助成金提供者

オーストラリア政府外務貿易省
ブレッド・フォー・ザ・ワールド (Bread for the World) (世界のためのパン)
クリスチャン・エイド (Christian Aid)
フィンランド政府外務省
ノルウェー・チャーチ・エイド (Norwegian Church Aid)
アメリカYWCA世界奉仕協議会 (World Service Council) (YWCA USA)
Y-グローバル (Y Global)

個人寄付者*

A.アルボガスト (A. Arbogast)、N.アッシュウッド (N. Ashwood)、T. アバンタイ (T. Avanthay)、S. アヤイボマ・ニコリーニ・デ・マツトス (S. Ayaipoma Nicolini de Mattos)、J.バソン (J. Basson)、J. バウドイン (J. Baudoin)、M.ベル (M. Bel)、J. ベネット (J. Bennett)、S.ブレナン (S. Brennan)、R. and A. バークハルト (R. and A. Burckhardt)、J. バージェ (J. Burge)、D. バージェス (D. Burgess)、J. キャロル (J. Carroll)、D.チハウラ (D. Chawla)、R.カザン (R. Cousin)、B.デブローカー (B. Debroeker)、R. ダンダス (R. Dundas)、C. ダンウォディ (C. Dunwody)、S.ドウルハム (S. Durham)、D. ダット (D. Dutt)、M. エストレラ (M. Estrella)、M.A. ファヌーラキス (M.A. Fanourakis)、R. フォークス (R. Fawkes)、J.R. ガン (J. R. Gann)、S. ガウル (S. Gaur)、R. ガウル (R. Gaur)、A. ジェラルド (A. Gerard)、E. ゲイマン (E. Geyman)、M. ゲイマン (M. Geyman)、D. グッドウィリー (D. Goodwillie)、C. グラボン (C. Gravon)、N. グルン (N. Gurung)、P. and C.ハダド (P. and C. Haddad)、M. ハダド (M. Haddad)、C.ハーデン (C. Harden)、M.ハーパー (M. Harper)、M.ヘフリン (M. Heflin)、S.ヘルトン (S. Helton)、K. ヘネン (K. Hennen)、L.ヘンシェン (L. Henschen)、C.ヒッキー (C. Hickey)、R.ヒネス (R. Hines)、C.ヒルケマ (C. Hylkema)、J.ジョーンズ (J. Jones)、M.ジョイエ・パトリー (M. Joye-Patry)、S.フテタ (S. Khuteta)、A. キング (A. King)、R.クリューバー-クリステンセン (R. Kluver-Kristensen)、E.ノット (E. Knott)、E.ラバート (E. Labhart)、D.レーシー (D. Lacey)、E.レーシー (E. Lacey)、K.リークー (K. Lee-Koo)、C. レンプ・ピサコプロス (C. Lemp Bitsacopoulos)、E.ルイス (E. Lewis、) J.ログ (J. Logue) G.マリノ (G. Marino)、C.O.マルクス (C. O. Markus)、E.マッカーシー (E. McCarthy)、J.マクミラン (J. McMillan)

A.マクレイ (A. McRae)、A.メイヤー (A. Meier)、G.ミラグ (G. Millag)、J.ミラー (J. Miller)、A.モアー (A. Moore)、M. E.モーリソン (M. E. Morrison)、C.マゲリッジ (C. Muggeridge)、R.ヌパネ (R. Neupane)、S.ニールセン (S. Nielsen)、T.ニクソン (T. Nixon)、P.ペネベーカー (P. Penebaker)、M.パワーズ (M. Powers)、M.ラトナバレ (M. Ratnavale)、M.リゼク (M. Rizeq)、M. ロメロ・ターネ (M. Romero Ternera)、C.M.ロストラツプ、(C.M. Rostrup)、E.L.ロストラツプ (E.L. Rostrup)、L.サブрук (L. Sabrook)、M.セクレタン (M. Secretan)、D.セガル (D. Segal)、M.S.シェイフ (M.S. Sheikh)、T.シバンダ (T. Sibanda)、D.シメレーン (D. Simelane)、M.シムズ (M. Sims)、N.スター (N. Starr)、M.タラツィ (M. Tarazi)、S.トンプソン (S. Thompson、) B.ティボー (B. Tibbo、) A. バレシヤ (A. Valecha)、M.バルガス (M. Vargas)、J.A. オネ (J.A. Vionnet)、S.ウエインスタイン (S. Weinstein)、N.ウィレム (N. Wilhem)、Y.H.ウォン (Y. H. Won)、E.J.ゼントナー (E.J. Zehntner)、D.ゼラヤ・ラウダーレス (D. Zelaya Raudales)

遺産からの寄付*：

Y.J.アルボン (Y. J. Albon)

加盟団体：

YWCAボー州 (スイス) (WCA Vaud)
YWCAキャンベラ (オーストラリア) (YWCA Canberra),
YWCAフランス (YWCA France)
YWCAロードアイランド州 (アメリカ) (YWCA Rhode Island)
YWCAフランス (YWCA France)
YWCAバハマ (YWCA Bahamas)
YWCAスリランカ (YWCA Sri Lanka)

サービス提供：

バーレストラフィック (Balestrafic) (ジュネーブ、スイス)

*匿名の寄付者は含まれていません。



世界YWCAはAccountable Now, Act Alliance そして International Civil Society Centerのメンバーです。国連のECOSOCには「諮問資格」で参加しています。



www.creativecommons.com

アトリビューション—非営利—改変禁止 4.0インターナショナル
世界YWCAのクレジット（名称、タイトル等）を表示し、かつ非営利目的であり、そして原文を改変しないことを主条件とし、この年次報告書を自由に再配布することができます。世界YWCA 2021年出版

www.worldywca.org



Scan code to donate

